

第51回冬期学会

51st Winter Scientific Meeting

現状を俯瞰し、 これからの歯科医療の方向性を探る

企画要旨

近代歯科医学の歴史とともに、ICDは継続的に歯科診療技術、歯科材料とともに歯科医療からの社会貢献を行ってきています。すなわち、臨床的な歯科医療に関する貢献に加えて、学術的な側面をも持ち合わせ、極めて理解しやすい学術団体の一つといえます。この長い歴史を有する活動を支えてきたのは臨床医のフェローであり、大学の研究者であったことには異論はないと思います。

そこで、2020年度冬期学会においては、現状における歯科医療を俯瞰するとともに、今後あるべき歯科医療について、開業という立場と、大学における研究者という2つの視点から、今後の展望をご講演いただくこととしました。きわめて複雑な社会状況ではありますが、歯科医療の持つ普遍性をどのように理解し、そしてそれをどのように伝えるのかを参加者の皆様と共に探っていく、そのような冬期学会としたいと考えております。

講演内容

- 複雑な症例に対する包括的連携治療
日本臨床歯科学会 理事長 山崎 長郎
- 歯冠修復における基礎研究と臨床へのフィードバック
日本大学歯学部 教授 宮崎 真至